

2015 年度全国自立援助ホーム協議会事業報告

2015 年度全国自立援助ホーム協議会では以下の 3 点を目標に活動してきた。具体的な事業報告については各委員会の示すとおりである。

1. 各ホームが健全かつ安定したホーム運営を行っていくための支援を行う。
2. これまでの自立援助ホームの伝統を継承しつつ新たな時代への対応力をつける。
3. 自立援助ホーム未設置県に対しての設置促進活動を厚生労働省の将来像（300か所）に照らし、行う。

今年度は 9 つのホームが新規に開設したものの、3 つのホームが廃止または休止となっている。また、既存のホームでも約 3 割のホームが暫定定員を設定されており、必ずしも安定したホーム運営といえる状況ではなかった。

国では児童福祉法の改正作業に伴い、児童の年齢拡大等の動きがある中で、自立援助ホームの重要性は再認識されているものによって、ますます多様な子ども達が入居することが予想され、これまでの自立援助ホームの役割と今後新たに出てくるニーズの中でどのような方向性で行くのかを考える一年でもあり、今後も継続して考えていく必要があると考える。その中で調査研究委員会を中心となって自立援助ホームの現状把握に努め、制度政策委員会を中心に国に対しての予算要望をまとめ提出するに至った。

人材育成と確保はどのホームでも喫緊の課題となっているが、研修委員会を中心に人材の育成を進めてきた。今後もよい伝統を残しつつ新しい時代への対応力を進めているための各種研修を行っていかなければならない

設置促進を進めるうえでもこれまでなかなかやってこられなかった全体的な自立援助ホームへの認知度・理解度を上げるために広報委員会を中心にホームページの管理やパンフレット・協議会便りの作成などを行い、自立援助ホームの啓蒙に努めてきた。特にホームページはホーム関係者だけでなくマスコミや個人の方がみており様々な問い合わせもきていた。

次年度は今年度行ってきたことを継続しつつ、さらに青少年の支援をより強固にしていくために様々な取り組みをしていく必要があると考えている。

2015 年度事務局事業報告

事務局長 恒松大輔（あすなろ荘）
事務局次長 小久保志津子（カリヨンタやけ荘）
庶務 久野亨（まつぼっくり）、大屋桂子（おうぎ寮）、秋田豊（マラナ・タハウス）

1. 事務局員 役割分担

○事務局長

- ・会員ホームの相談対応
- ・協議会の会費の確認の連絡等
- ・各種振り込み
- ・三井住友海上保険の受付
- ・子ども未来財団（元プロミス基金）の賃貸借契約更新時補助金の受付
- ・社会人一年生スタート応援事業助成の受付
- ・三菱電機 SOCIO(ソシオ)-ROOTS(ルーツ)基金による環境改善助成の受付

○事務局次長

- ・会計責任者
- ・入会退会関係（入会申し込み書の送付・電話での対応）
- ・運営役員会の交通費の支払い
- ・協議会の会費の徴収・祝い金振込み
- ・三井住友海上保険の支払い

○庶務

- ・各種書類（通知文・ハンドブック・パンフレットなど）の配送
- ・メールにて各種連絡
- ・運営役員会の議事録

- ・自然災害などの被害届
- ・各委員会の動き・HP・たよりの確認
- ・会員のメールアドレスの管理
- ・運営役員会の開催（日程調整・会議室の確保・参加者に通知）
- ・会計ソフトの管理
- ・決算書・予算書の作成

2. 運営役員会の開催

第1回	2015年	4月28日	11:00~12:00	アルカディア市ヶ谷 ホーム長研修会・総会 最終確認
第2回		6月5日	12:30~16:30	人権教育啓発推進センター ホーム長研修会・総会総括 全国大会について
第3回		8月3日	12:30~16:30	人権教育啓発推進センター 全国大会について、三菱電機の寄付について、 ホーム実態調査について
第4回		10月1日	11:00~12:00	ボストンプラザホテル 全国自立援助ホーム協議会滋賀大会の最終確認
第5回		12月14日	13:00~17:00	プロミス渋谷お客様サービスプラザ 全国自立援助ホーム協議会滋賀大会総括 三菱電機の寄付について 全国自立援助ホーム協議会茨城大会について 新規スタッフ研修について
第6回	2016年	1月26日	14:00~17:30	カリヨン子どもセンター事務局 次年度ホーム長研修会について・総会について 緊急学習会について 全国自立援助ホーム協議会茨城大会について
第7回		2月23日	10:00~12:00	全国社会福祉協議会 次年度ホーム長研修会について・総会について 各委員会の事業報告（案）の確認・事業計画（案）・ 予算（案）についての確認

※開催時期に間に合わない可能性のある議案については、そのつど運営役員にメール等で確認

3. 事業報告

- ・2015年 4月28日 ホーム長研修会（アルカディア市ヶ谷）
- ・2015年 4月29日 総 会（アルカディア市ヶ谷）
- ・2015年 9月30日~10月 2日
全国自立援助ホーム 滋賀大会（ボストンプラザ）
- ・2016年 2月23日 緊急学習会（全国社会福祉協議会）

2015年度制度政策委員会事業報告

委員長 藤川栄治（ホームそらまめ）

委員 杉田善久（ボ・ドーム）・竹原裕昭（神戸市立自立援助ホーム 子供の家）

2015年度の活動としては以下の通りでした

- 2015年6月2日（火）厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課を訪問し、2016年度国家予算要望書を提出した。
出席者（協議会）星会長・高橋副会長・平井副会長・恒松事務局長・久野事務局担当・藤川委員長（厚生労働省）大隈課長・度会課長補佐・寺沢課長補佐・志田係長
以上の出席のもと、懇談を行い、自立援助ホームの現状の理解と支援要望を行った。
- 2016年1月 平成29年度国家予算要望をまとめることから、会員の要望をお聞きしまとめた。
結果 14 ホーム（要望項目 34）から報告を頂きました。
- 事業計画として様々な計画を掲げたが、実行・実現が伴わなかった。

2015 年度調査研究委員会事業報告書

調査研究委員長 前川礼彦（湘南つばさの家）
調査研究委員 屋代通子（シーズ南平岸）、川口充紀（わだちの家）、
古賀直樹（かんらん舎）、内藤直人（鳥取フレンド）
協力 松本伊智朗（北海道大学大学院教授）
永野咲（日本学術振興会特別研究員）

※敬称略

今年度は数年の懸案であった「全国自立援助ホーム実態調査」に取り掛かることが出来た。全国的な調査な為、専門家の協力も頂きながら進めることが出来た。また毎年行っている「ホーム人数調査」も行い、厚労省への予算要望の資料としての提出もした。

①全国自立援助ホーム実態調査

近年急増した全国自立援助ホームの運営状況、入居者背景の実態、ニーズや課題を明らかにする目的として、「ホーム調査」と「利用者調査」の2本柱を行った。この調査は北海道大学の共同研究として、松本伊智朗先生のご協力を頂き、協働して調査を進めることが出来た。調査項目の選定、作成、特に100を超えるホームへの発送、督促、集計の労力がかかり、松本先生の研究室事務員方々には多大な協力を頂いた。調査の結果は来年度にかけ報告書としてまとめて、再来年度に向けた制度政策提言に繋げていく。

委員会活動

- 6/ 1 調査研究委員会（北海道大学） 調査の進め方、質問項目の検討
- 7/ 6 調査研修委員会（北大東京オフィス） 質問項目の検討
- 8/18 全国へ調査票発送 ※各委員より各ホームへ締切日以降の督促連絡
- 10/ 2 調査研究委員会（滋賀大会） 進行状況確認、分析について
- 12/14 調査研究委員会（北大東京オフィス） 統計、分析作業
- 2/22 調査研究委員会（北大東京オフィス） 統計、分析作業

調査日：2015年8月18日～12月24日

調査ホーム数：106箇所（利用者調査は計836人）

回答ホーム数：103件（1ホーム休止、1ホーム閉鎖、1ホーム提出拒否）

②ホーム人数調査

毎年、国から要請がある調査であり、利用者の在籍数、年齢、性別やスタッフの構成、暫定定員の理由、加えて進学をした利用者数なども調査した。

調査日：2015年4月29日～5月7日

調査ホーム数：106ホーム

回答ホーム数：104ホーム（2ホーム休止中）

結果：5月の厚労省国家予算要望書陳情の際に提出。昨年同様、暫定定員を余儀なくされる制度の課題や、ホームの現状についても説明をした。

※暫定定員のホームは104ホームのうち32ホームであった。

※高校、大学等在学している利用者は全ホーム在籍者のうち29.1%であった。

③その他

あり方検討委員会は協議会で特に活動がなかったため、調研としても活動はしなかった。

2015 年度研修委員会事業報告

研修委員長 田村崇（鳥取スマイル）
研修委員 羽田浩之（ベアーズホーム）、平井千晶（慈泉寮）、本間稚啓（人力舎君津）

- ホーム長研修会 2015年4月27日（於：アルカディア市ヶ谷）参加者 98名
行政説明 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課
家庭福祉課長 大隈 俊弥 氏
研修会 「自立援助ホーム運営指針についての説明と意見交換」
～ホーム数の増加とニーズの多様化に伴う自立援助ホームの
運営のあり方・・・共有すべき支援内容とは？～
運営指針の説明
ふくろうの家ホーム長 高橋一正 氏

新規ホーム紹介

- 女性スタッフ研修会 2015年7月27日～28日（於：福岡市）参加者 41名
講義 「児童自立支援施設・自立援助ホームの双方が求めるもの」
～女性スタッフとしてどんな援助が必要なのか～
講師 児童自立支援施設 福岡県立福岡学園
自立支援専門監 河尻 恵 氏
自立援助ホーム かんらん舎 大谷 幸代 氏

グループ討議

ホーム見学（かんらん舎）

- 全国大会（滋賀大会） 2015年10月1日～2日（於：草津市）参加者172名
行政説明 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課
社会的養護専門官 笹川 浩昌 氏
基調講演 「社会的養護の課題と方向性」
～青少年の現状と自立へ向けた支援の在り方を問う～
講師 立命館大学教授 野田 正人 氏

4分科会

シンポジウム「関係専門機関との有効な連携について」

～自立援助ホームの役割を探る～

- シンポジスト 西岡 潔子氏（大津少年鑑別所所長）
菅野 道英氏（彦根子ども家庭相談センター所長）
星 俊彦氏（星の家、全国自立援助ホーム協議会会長）
コーディネーター 野田 正人氏（立命館大学教授）

- スタッフ研修会 2016年1月25日～26日（於：アルカディア市ヶ谷）
参加者26名

講義「ホーム内の職員間の関係性や連携の取り方について」

～経験が浅いスタッフとの連携～

- 講師 東京国際大学 人間社会学部准教授 村井 美紀 氏
シンポジウム「職員間の関係性や連携の取り方について」
シンポジスト 恒松 大輔氏（あすなろ荘）
小久保 志津子氏（カリヨンタやけ荘）
コーディネーター 田村 崇氏（鳥取スマイル）

- 自主研修支援
中・四国地区自立援助ホーム連絡協議会研修会への助成 2016年11月30日（於：高松市）
- 研修委員会 1回

2015年度広報委員会事業報告

広報委員長 新井秀親（夢舞台）

広報委員 松木良介（経堂憩いの家）、大橋達也（吾が家）、野原知子（マルコの家）

①広報委員会定期開催

2015年度の広報委員会は、下記の通り定期的に年6回開催致しました。

全国会員の要望を丁寧に拾い上げるシステム作りに関しては、来年度も引き続き、広報活動の課題として取り組んでいきたい。

第一回広報委員会	2015年	7月	2日	ベアーズホーム
第二回広報委員会		9月	1日	上尾市市民活動支援センター
第三回広報委員会		11月	18日	ベアーズホーム
第四回広報委員会	2016年	1月	20日	ベアーズホーム
第五回広報委員会		2月	12日	上尾市市民活動支援センター
第六回広報委員会		3月	16日	ベアーズホーム

②『協議会たより』

全国自立援助ホーム協議会の広報誌として、『協議会たより』を予定通り年2回発行。

一回目は、全国大会前の9月に発行。二回目は、年度末の3月に発行。

③ホームページの活用

全国の会員に向けた事務局からのメールでの各種ご案内については、その内容の必要性に応じてスピーディーに、ホームページ上で告知しました。また、年間を通して随時、事務局と連携を取りながら最新のニュースをご案内させていただき、特にホームページ上の各種お知らせのところでは、先々の日程を含めた研修案内や自立援助ホームに関わる助成・支援情報のご案内および助成金授受のご報告、そして、各委員会の主な活動内容を掲載させていただきました。

④広報委員会企画による座談会の開催

2016年2月、埼玉県上尾市にて、広報委員会企画による座談会を行いました。座談会の参加者は3名の中堅スタッフで、テーマは、『自立援助ホームの次世代を担う人々』です。自立援助ホームの未来を見据え、今後の不安と期待を背負いながらも、日々子どもたちの暮らしに真摯に向き合っている姿勢が感じとられる内容となりました。

この座談会の内容は、来年度の協議会たよりに掲載する予定です。

ホームページ上でも、その時の様子を写真で掲載しています。